



# JCLIFE

2023年  
11月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F  
TEL:0848-20-1110 FAX:0848-20-1112 E-mail:ojc@urban.ne.jp Facebook:<http://www.facebook.com/isojcnw>



## 10月例会

10月16日(月)尾道国際ホテルにて、テーマを「すべての人がキーパーソン」子どもたちのわくわくを見つめるのはあなた」と題して、10月例会を開催しました。

一般の方々にもご参加いただき、講師に認定NPO法人



キーパーソン21代表理事の朝山あつこ氏をお迎えし、「わくわくエンジン」というコンセプトを元に、大人が子どもたちのわくわくをどう引き出し、認め、伴走してあげるかというところをご講演頂きました。

講演後、副実行委員長との対談にて大人が

どう関わってあげるべきかを掘り下げ、実際の引き出し方を実演して、先生の考え方を体感し、大人として、そして青年会議所会員として今後の子どもとの関わり方を考えることができました。

(記事…中国地区コンファレンス  
実行特別委員会 安保大輔)



## 全国大会

10月6日(金)～8日(日)東京ビッグサイト、有明GYMEXにて、第72回全国大会東京大会が開催されました。

日本中のJCメンバー・同志が開催地に集い、各種フォーラムや大会式典、卒業式が盛大に執り行われ、尾道青年会議所からも多くのメンバーが出席しました。

本年度、尾道青年会議所からは11名のメンバーが卒業されます！  
卒業予定者の皆さん、おめでとうございます！

本年度も残りわずかとなりましたが、最後まで一緒に駆け抜けていきましょう！  
(記事…中直哉)





# みんなで創ろう！ 秘密基地大作戦！

10月14日（土）原田芸術文化交流館やまそらにて、「みんなで創ろう！秘密基地大作戦！」を開催いたしました。参加した小学生達は自分たちの秘密基地のデザイン、奇想天外なギミック、カラフルな配色などのアイデアを出し合い、秘密基地を作り進めていきました。

初めての経験に最初は戸惑っていた子供達も、チームの仲間と協力して問題を解決していく過程で自信を持って自分の意見を出すようになりました。

建設中の秘密基地で一緒に昼食を食べる頃には素晴らしいチームが出来上がっていました。完成した自分たちの秘密基地を笑顔で家族や大人達に紹介してくれた様子は充実感に満ち溢れたものでした。

本事業は現代の子供達に不足しているといわれる実体験を通したリアルな経験によって思考力や創造力、表現力の育成を目指したものでしたが、驚くような発想や吸収力、チームワークの構築力には大人が学ばされる場面が多々ありました。

ご参加いただいたメンバーの皆様、そして、本事業に参加して頂いたこども達、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

（記事：未来輝く青少年育成委員会 松本裕太）



## おのまっち

～尾道魅力発見～

**Food & drink**

- 尾道焼肉 (新尾道)
- おのまっち (尾道)
- 尾道焼肉 (尾道)
- 尾道焼肉 (尾道)
- 尾道焼肉 (尾道)
- 尾道焼肉 (尾道)
- 尾道焼肉 (尾道)
- 尾道焼肉 (尾道)
- 尾道焼肉 (尾道)
- 尾道焼肉 (尾道)

**【TimeTable】**

- 9:20 - エントリー
- 9:50 - スタート
- 10:55 - ロンゴ大会
- 12:10 - 尾道市立大 サッカー
- 12:55 - 尾道市立大 テニス
- 13:45 - ロンゴ大会

11.23 (祝日)

9:00 - 15:00

尾道市役所駐車場

JCI 一般社団法人 尾道青年会議所

## おのまっち 告知

11月23日（木・祝）尾道市役所駐車場にて、「おのまっち」を開催します。

尾道には、まだまだあなたが知らない魅力が溢れています。

尾道でできる体験・尾道の新しい飲食店・新商品。あなたが気付いていない尾道の魅力をみて・触れて・感じてみませんか？

土堂っ子太鼓やダンスパフォーマンス、ビンゴ大会等、会場を盛り上げる催しも盛り沢山。

当日は、多くの皆様のご来場をお待ちしています！

（記事：組織活性化委員会 高垣 裕吉）



## 仮入会研修 グルメサミット出店

11月21日(土)、22日(日)第36回グルメ・海の印象派ーおのみちー「グルメサミットin尾道」に出店して参りました。

仮入会員研修の一環として出店させて頂いた今回のグルメサミット。

尾道青年会議所は、本年度仮入会員を中心に試行錯誤を重ねた「レモンチキンカレー」を販売。当日は晴天にも恵まれ、多くの皆様が来場され2日間とも完売御礼となりました。

仮入会員の皆様、2日間大変お疲れ様でした。これからも共に尾道のまちを盛り上げて参りましょう!!ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました!

(記事・渉外局長 村上康)



## 故小林和作画伯を 偲ぶ会

11月4日(土)、

西國寺にて故小林和作画伯を偲ぶ会が開催され、

法要及び小林和作賞授与式並びに講和会に、本年度理事で参加して参りました。

小林画伯の墓所にお参りをした

後、尾道市の美術振興に貢献された方に贈られる小林和作賞の授与と、小林和作旧居の活用について尾道空き家再生プロジェクトの取り組みを拝聴しました。手塚弘三先輩から和作先生を偲ぶお話しも拝聴でき、尾道の歴史と文化に触れる素晴らしい機会となりました。

(記事・藤田祐輔)



## 卒業生ス。ピーチ



失礼いたします。岡美央と申します。よろしくお願いたします。本日トップバッターということで緊張しています。

まず初めに、私がこの、尾道青年会議所の卒業予定者となれたのも、皆様のご理解があつてこそだと思っております。本当にありがとうございます。今でも、私が皆さんと同じような経営者という立場で、JCに所属していること自体が不思議な感覚ではあります。なぜなら、私は決して経営者になろうとは思っていません。なぜなら、私は決して経営者になろうとは思っていません。ここから、少し自己紹介を兼ねていろいろお話しさせていただきます。

現在、会社が5期目、個人事業から数えると11年目になります。

そもそも私が個人事業を始めようと思ったきっかけは、「単なる趣味の延長線」で、「主婦のお遊び」ぐらいの感じでした。

主人が転勤族ということもあり、定住して仕事ができないうということもあり、どこでもできる仕事を、と思い講師業で起業したのがきっかけです。

現在は子育てで支援、ママ向けマーケティングというニッチな事業を行っています。スタッフも全員ママ、お客様も全員ママ、というコミュニケーションングです。

そもそもなぜ、私がこのような事業を始めたのか?それも答えは単純明快で、「自分が欲しいものを作っただけ」に過ぎません。ママ友が欲しくてママサークルを作ったり、フリーペーパーが欲しくて作ったり、子どもを英語教室に通わせたいから英語教室を始めてみたり。全ては自分の欲からスタートした事業ばかりです。それがありがたいことに、多くのママさんたちの共感を得ることができ、現在まで続いているのは、私自身、10年前には想像もしていなかった未来です。

想像もしていなかったといえば、この尾道青年会議所に所属することも、こうやって卒業予定者になるということも10年前にも5年前にも全く想像していません。未来です。「未来は自分で作るもの」とよく言いますが、まさにその通りだと思っております。



自分自身の二つの選択が、自分の未来を作り上げていく。それをまさに実感しています。

ではなぜここに所属しようと思ったのか？自分の未来として選択したのか？という理由ですが、実際のところ「何をするとよいかよくわからないまま、入ってしまった」というのが正直なところ。恥ずかしながら、知人に紹介されるまでは、存在すら知らなかったのです。

ちょうど年号が変わった令和1年に個人事業主から法人となり、そのタイミングで仮会員として加入。令和2年より正式に本会員となりました。しかし、本会員になったこの年、コロナウイルスの感染拡大により、ほとんどの事業や例会などがストップしてしまいました。ただでさえ、何をするとよいかかわからないのに、何もわからないまま所属することとなってしまいました。

最初に入ったのは会員拡大委員会、高橋洋樹先輩が委員長でした。私の家庭の事情などもとても汲んでくださり、私が参加できるものをいろいろ提示していただきました。

コロナ禍でしたので拡大活動がなかなかできない中でしたが、新入会員にお渡しする動画の撮影で、司会を担当させていただけました。貴重な経験をさせていただけたなと思っています。また一緒に幹事をしていた、同期の沼尾君には私がいかに活動できないことにより負担を大きくかけてしまったなと思っています。色々ありがとうございます。

翌年は、小西委員長の総務広報委員会でした。まだまだこの年も、コロナ禍で、多くの例会や事業が中止になっていた記憶があります。また私も子どもがまだ小さかったこともあり、なかなか例会に参加ができず、とても息苦しい状態でした。このまま続けていいのか、やめたほうがいいのか、一番考えた

時期でもありません。そんな中、卒業例会での司会を任せられました。最初は本当に私でいいのか？できるのか？と何度も自問自答したことを覚えています。しかし委員会メンバーの後押しもあり、引き受けることとなりました。家で原稿を読み込んだり、リハーサルにできるだけ参加したり、出来る限りのことをしたつもりです。この時をきっかけに、JCにもっと参加できるようにしていけたらいいなと思うようになりました。当時、委員会が二緒だったメンバーの皆さん、本場にありがとうございます。またいつも丁寧な返信をしてくださった小西委員長、ありがとうございます。

令和4年は半田委員長の青少年育成委員会でした。まだまだコロナ禍ではありましたが、徐々に事業ができるようになってきて、やっとここでJCがどういったものを理解してきたような気がします。委員会が担当の事業や例会は、できるだけ出席参加をしようと思ひ、参加させていただきました。それでも、委員会メンバーにはご迷惑をおかけしたと思います。また、半田委員長も、私ができることを役割として与えてくださったので、とても動きやすかったです。本場にありがとうございます。

ただこの年だけ、卒業例会に出席することができず、お世話になった先輩の卒業を見れなかったことがとても悔やんでいます。

この年は創立65周年記念式典でも、役を与えていただきました。声をかけてくださったありがとうございます。

そして今年、今年が輝くまちづくり推進委員会です。コロナが第5類に移行したこともあり、どの委員会も多くの事業に取り組みることができており、やっと今年、尾道青年会議所の全体像を把握できたなと思っています。少し話はズレますが、私は入会当初、

40歳で卒業と聞いていたので、本会員になってから3年での卒業だな、と思っていました。ですが、私は1月生まれのため、もう1年あるよ、と言われた時、ものすごくびっくりしたこと、3年だけだと思っていたのに。と後悔をしました。しかし、もし3年で卒業していたら、コロナ禍の影響もあり、尾道青年会議所が、一体どんな団体だったのか、どんな活動をしているのか、わからないまま卒業することとなってしまったので1年卒業が伸びてある意味ラッキーだったなと思っています。

話を戻しますが、現在亀田委員長のもと、輝くまちづくり推進委員会に所属しています。今の委員会メンバーも私にできることを役割としてふっつてくださり、本場にありがとうございます。

一昨日キックオフした、尾道ビジネスコンテストでもメンターを務めることとなりました。担当の方のプランをブラッシュアップできるように、精一杯努めてまいります。

そして卒業まであと3ヶ月、できる限りのことを懸命にやっています。

尾道青年会議所に所属してみても率直な感想で恐縮ですが、ただただすごいなと思っています。なぜなら、尾道を代表する企業の経営者の皆さんが集まっているからです。

それを強く感じたのは、令和2年にあった、サブライズの打ち上げ花火。あの時、友人や知人の多くがSNSに投稿してくれ、JCへの感謝の言葉が並んでいました。

それを見た時に、こんなにすごいところに所属しているんだ、と嬉しくなってきたことを覚えています。

仮入会を入れると、私が所属していたのは約5年間になります。期間としてはとても短い期間でしたが、私生活のこと、会社のこと、そしてJCのことを

入れると、とても濃い5年間だったと思います。特に私生活では当時小1と年中さんだった子どもが、今は小5と小3になっています。当時例会に出席するために家を出る私に、「ママ行かないで」と泣きながら私の帰りを待っていた娘も、今では「いつてらっしゃい」と見送ってくれるようになりました。子どもの成長とともに、私も成長できたらいなと思っています。

家庭の事情もあり、なかなか活動に参加できないことが多くあり、それでも温かく受け入れてくれた皆さんに感謝があります。卒業まで所属させていただし、ありがとうございます。そして今後ともよろしくお願いいたします。



皆さんこんにちは。少しの間ですが、お付き合いのほどよろしくお願ひいたします。

まず簡単な自己紹介なんですけれども、私自身、父がOBだったということもあって、JC2世です。会社はこのペイタウンにありますので、各先輩方がOB・OGとして活躍されています。私がJC活動をやるということには、会社からも理解があり、両親からもしっかり応援していただけるややすい立場でした。

しかし、1年目入ってみると、幹事という仕事は、委員会をやるために鍵を取りに行くとか、事業をやる時には職務中抜けなれないけない、土日は事業に出ていくという日々、こんなことをしていいんだろうか、と思っていました。ですので、1年目の幹事の時には、どうも自分が積極的になれなかった。そういう1年だったなと思います。





2年目に、私のLOM歴の誇れるところとして、2年連続幹事をやっております。どういことかという、次の年の仮入会の方が入って来られなかったというわけなんです。ですが、幹事ということでそのときも可愛がっていただいて、2年続けてアフターでお金を払ったことがありません。ですので、当時入ってこられなかった仮入会の方に感謝しています。そういうふうにも可愛がっていただいたおかげで、少しづつ自分の中でもJICが楽しくなってきましたが、楽しい事業に参加させて頂くという姿勢でした。

それが大きく変わったのは、3年目のブロック大会特別実行委員会の時でした。皆さんも今年ブロック大会を経験されたかと思いますが、式典ウオーラムたからいちがあつて、大懇親会がある。本当に大きな大会です。その中で自分自身も、たからいちの推進リーダーを任せていただき、当時は緑地帯のところでの様々な企画、運営、また出展者との交渉をさせていただきました。

私がJICに入ることがなかつたら、市役所の方、警察の方、祭りの方、教育委員会の方、様々な方たちと関わることがなかつたわけですが、こういったことを機会に街の方と関わることできたというのは、本当に自分にとっても大きな大きな財産になったなと思います。

ブロック大会のたからいちをやる上で苦労したことという、予算がないので、「すみません。緑地帯貸してもらえませんか。ステージに出てもらいたいです。出展して頂けませんか？予算が無いので無償でお願いします。」というお願いばかりで、これを全ての団体が本当に快く受け入れてくれました。それはきつと、今までやってこられたJICのOB・OGの方たちのおかげだと思えます。よく考えてみると、交渉した各団体の要職に就かれている方って大体JICのOB・OGなんですよ。この会長をやっていたとか、どこの人と太いパイプがあるとか、そんな方たちと私たちは交渉させてもらっています。尾道市を動かしているのはJICのOB・OGなんじゃないかな。と感じられるぐらい街に関わっている素晴らしい団体だなと思います。なにはともあれ、そういった、たからいちを

経験させてもらって、この年からそれまで参加型だったJICに対する姿勢が自らJICに深く関わる事ができるようになって、JICがだんだん楽しく思えるようになりました。

その後は、おかげで、理事もやらせていただくことができましたし、入会から12年ほどが経ちましたが、自分の中のJICに対する価値観も大きく変わってきました。

それを大きく感じたのは、今年、京都会議に行かせていただいた時でした。

京都会議は本当に楽しかったのですが、入会当時に参加させていただいた京都会議には、少し違和感を感じていました。京都会議に行くと懇親を深めるというのがJICの常識かもしれませんが、その常識はもしかしたら世間一般の非常識。と言われるかもしれない。ただ、その非常識をするために全国からJICの人たちが集まってきた、次の日は何食わぬ顔をして帰って、月曜日から真面目な顔をして働くわけなんです。その非常識を共有する人間が日本全国に5万、10万人いる。自分がJICを卒業してからも仕事で県外に出たときに、その非常識を分かり合える経営者がいる。君も京都会議に行つたんだ、全国大会に行つたんだ、というふうに、その話をただでなく仲間になれる。とそういった関係性を持つてる相手が、全国に自然とできます。

ですので、LOM内だけでもいろんな事業があります。JICのOB・OGが、ぜい外で行われる事業、各LOMのJIC会員が集う事業、全国大会であったり、ブロック大会であったり、京都会議であったり、そういったところこそ積極的に参加していただくと、今後の自分の活躍の場というのが日本全体に広がっていくだろうと私は考えます。ぜひ皆さん、外の事業を大切にしていきたいな、と私は思います。

とはいえ、本当に1泊2日、2泊3日以外に出していくのが大変なことだと思います。それを許してくれる家族だったり、会社だったりというのは本当に大事にしていかなければいけません。それに対して何か返していかなければいけません。それは思っていますけれども、そもそもJICをやっていること自体が恩返しじゃないかなと思

います。JICを卒業すること自体が恩返しだと思います。もしJICに入っていないから、おそろく自分は朝から晩まで同じ仕事をし、人に対して仕事を振ることができない経営者となつていってしまう。JICに入つたなつていってしまう。JICに入つたおかげで世界が広がりました。繰り返したくなりますが、JICを卒業すること、それこそが恩返しなんだろうなと思いますので、ぜひとも皆さん、今年から入会する方もいらつしやると思っていますけれども、卒業まで楽しいJIC生活にしたいなと思っています。



中村 俊

皆さんこんにちは。今日は、私のJICの経歴をお話して、自分の感じたことを、皆さんに少しでもお伝えできればと思っております。どうぞよろしくお願ひします。

私は2011年に仮入会として入会させていただきました。その時は、ちょうど坂本先輩が1回目のデイズニーパーレードを開催して、かなり活気があつてすごい組織だなと思つたのを今でもよく覚えております。

次が2012年、村上忠正先輩が委員長を務めておられました。未来ビジョン委員会に配属をさせていただきました。入会当初、「JICで何か意見を言うのであれば、3年間は黙って全部の事業に出る」と言われておりました。これは決して3年間何も言うなということではなく、実際委員会でも僕もいろいろと発言させていただいたのですが、「JICという組織を十分に理解するには3年間はかかる。組織を理解した上で建設的な意見を言ひしよう。」という意味で言っていたんだと思います。そのため、今では考えられないんですけど、素直な性格だったこともあり、その後3年間はおそ

ただ、かなり抜けてた性格であつたこともあり、当時未来ビジョン委員会に谷前監事がいらつしたんですけども、同じ、幹事だと思は思ひまして、「谷前さんも幹事なんですか。大変ですね、お互い。」みたいな態度で接していたんです。谷前さんはすごく優しい方で、いや、本当に大変なんよという風に、たぶん分かつた上で、答えていたんですね。今でも顔から火が出るほど恥ずかしいんですけども、当時はすごく馴れ馴れしい新入会員だったかなと思ひます。

2012年には、「気仙沼・尾道絆プロジェクト」という事業がありました。震災からちょうど1年ほど経つた時で、尾道でも震災復興の事業をしていた時でしたが、当時、村上忠正先輩が東北の方に2011年に出張に行かれ新幹線に乗っている際に震災に遭い、気仙沼の悲惨な状況をその目で見られ、その上でこの事業をどうしてもやりたいということ、2012年にこのプロジェクトをされたことと記憶しております。

この事業は、気仙沼に美和太鼓という太鼓を叩く団体の子どもたちがいて、その子たちを尾道に招待し、土堂小学校の子どもたちと交流をしてもらいながら、最後には、尾道の海で遊んでもらうという事業でした。気仙沼が、当時まだまだ海で遊べるような状況ではなく、しかも景色が、気仙沼と尾道と割と似ているんです。だから尾道で遊んでもらつたんですが、子供たちもすごく楽しんで、シーサイドパレードで太鼓も叩いてもらい、良い笑顔を見せていました。

初めての事業がそれだったので、僕もJICで本当にすごいなと、あつこの委員長という存在で、もう化け物だと思ひました。忠正先輩は当時、気仙沼へ飛行機で行つて、皆を連れて帰ってくるということまでされておりました。JICの委員長って、とんでもない人しかねないんだろうなというイメージがあつたのを今でも覚えています。

続いて2013年、濱中貴一郎先輩の委員会です。貴一郎先輩は吸収型の委員長で、ぐいぐい引張っていくよりは、みんなの意見を取り入れて事業をする委員長でした。すごく楽し



くて、こういう方もいらつしやるんだと、勉強になったのを覚えております。

次が、同期入会の三谷先輩が委員長だったんですけども、この時にフェイスブックをまだ始めたばかりで、毎日更新するようにと正副で言われていたんですね。委員会で、それは無理だ、せめて週3回にするように言ってきたてくれって言ったんです。けれども結局、次の委員会で、「やっぱり毎日やることになりました。」と言われて、毎日更新していったんです。

その時はベテランの方も多く、僕と三谷委員長と、武田大俊先輩が副委員長で、岡田健吾先輩が幹事でいたんですけど、基本的にその四人で委員会を回していました。フェイスブックも、最初は毎日更新してたんなんですけど、最後の方は、尾道の夕日だとか訳の分からない更新の仕方をして、やるのがなすすぎで、委員会がギスギスしてました。最後の方、僕だったか誰かだったか覚えてないですが、更新をしなかつたんです。一日、そしたら、スツと気持ちが悪くなって、もうこれで更新せんでいいんじゃないかな。本当はダメなんですけど、それで、ごく委員会内の空気が軽くなったのを今でも覚えてます。

次の年が、セクレタリーをやらせていただいた年です。本多先輩が理事長で、池田誠先輩が専務をやつて、僕と大西君と今岡先輩でセクレタリーをしました。今でも本多先輩、池田先輩に誘われて年に数回飲みに行ったりするんですけど、すごく楽しませていただきました。

また、当時ブロック大会があったとき、式典に山本モナさんが来られるとのことで、川崎耕平先輩から司会をやつてくれと言われ、モナさんと一緒に司会をやらせていただきました。良い経験させていただいた年だったな、というのを覚えていきます。

次に2016年、満を持して委員長をさせていただいたんですけども、セクレタリーのときに理事会を見てたんで、何とかなるかみたいな空気で受けたんですけど、全然もう何ともならなくて。当時、島田元太郎君が副委員長で、加藤雄大君が幹事で、高升君もメンバーにいたんですけど、島田君とは、ほぼ毎日といつていいほど浪漫珈琲に集まって、色々な話をさせていた

できました。

やった事業が、当時はロコモティブシンドロームというのが問題になってまして、子どもの運動不足、子どもの体が十分に運動できない体になつていくというのがあったので、それに対して事業をやるようになり、各小学校に調査に行きました。そしたら、尾道の子どもつて、全然問題がなかつたんですね。もう事業の前提が崩れてるんです。ただ、中にはやっぱり運動不足の子もいたんで、それを前提にやつたんですけど、その事業の後半で、どう運動したら子どもたちがうまいこと体が作れるかというのを、幡中幹生先輩のころのトレーナーの方に来ていただいて、お話ししてもらつたり、いろいろ頑張つてやつた事業かなと思います。

これだけは自分の少し自慢なんですけども、防災に関しての授業を始めたのは、うちの委員会が初めてというのがあります。震災から5年経つてましたし、当時も地震が来ると言われていた割には、どこのLOMの手帳にも、震災が起きたときの連絡網が載つてなくて、これはもう俺らから始めようみたいな感じでやつた事業でした。

そのときにイエス・ノーゲームというのを新宅先輩と一緒にやらせていただきました。「もし、自分が会社から出たときに地震がありました、携帯電話も通じません」となつたときに、真つ先に家族のために家に帰るのか、それとも社員さんに何か伝えないとイケないから会社に戻るのか、どっちを選びますか?みたいなゲームだったんですけど、これつて正解が実はないんです。どっちも正解ですし、どっちが間違っていることはないんです。ただ今のうちに、何かあったときのために、家族や会社と話し合つてくださという心構えをお伝えするゲームでした。

そのときに片岡先輩に話を聞いたら、片岡先輩も家族に、地震か何かあったら会社に行くくけ、お前家を頼むで、という話をすでにされていたというのを聞きましてですね。特に何か起こっているわけではないこの時点で、そこまで話ができているというのにはすごいなと思つて、尊敬させていただいた記憶があります。次の2017年は政成委員長の総務だったん

ですけども、これはお酒ばかり飲んでた委員会だったんで、特に問題はないかなと思います。

次の年が、未来ビジョン委員会、吉田理事長が委員長されていたときですね。このときに覚えているのが、JICの歴史を皆さんにお伝えしようということをやつた例会があったんですけども、僕らの中で、戦後復興からJICを立ち上げるつてのは、すごく熱意とやる気に満ちたメンバーなんだろうなというのがあったんですけども、意外に飲むのが楽しいけえみたいな理由で、最初始まったみたいなのがあったんですけど、時代が経つことに、組織が変わつて厳しくなつていったりとかしたんですけども、立ち上がりのときは、そういう思いもよらないところから始まつたというのが、新鮮で面白いな思つてですね。これに関しては、すごく勉強になったなという事業でした。

小林暢玄君が委員長のと、このときは元日本代表監督の岡田武史さんと呼んで、公開例会をさせていただきました。当時はFC今治の運営会社の代表をやられていましたので、今治までサッカーの試合を見に行つたりとかして、すごく勉強になったなという委員会でした。

次の年、事務局長だったんですけども、この年からコロナが流行り始め、いろいろ上程はしましたが、全然実行に移せないという苦労があった年ではありました。事務局で集まり、どの程度の感染者が出たら中止にするのかとか、どの程度、感染者が減つたら開始するのとか、いろいろな話し合いをしました。理事長としては事業をやつてほしい。ただ委員長としてはどうしてもできる状況ではないみたいなのがあり、いろいろと問題が多く悩んだ年ではありました。

次の年が吉田嵩正君の拡大の委員会ですね。事業でいろいろと問題はあったんですけど、これは無事解決したということで、大丈夫だと思えます。

2022年、半田委員長のアソビオですね。この頃からコロナがだいぶ緩和されたイメージがあつて、実際に遊ぶ会場を一緒に作つたりとか、子どもたちと一緒に交流したりとかで、記憶に残つていた委員会だったんですけども、中司さんが出てこないと思つて散々と言わ

れていた年ではありました。本当に申し訳ありませんでした。

今年が松本委員長ですね。予定者としてすごく気を使つていただいて楽しませていただいていますし、しっかりした事業をやられている委員会なので、何の心配もなく、今年は楽しませていただいているような状況です。ちょっと駆け足になってしまつたんですけども、以上が僕の13年間のJIC生活です。

いろいろと勉強になることばかりで、大変いいJIC生活だったなと思つんですけど、僕から何か改めてお伝えできることはないかなと考えました。自分が入会してスタートダッシュですつと出て、JICで休むということはほとんどなかったのかなと思つてますが、その中で、早めにセクレタリーのお誘いだつたり、委員長、副委員長、出向等、いろいろと声をかけていただくことが多かつたんですね。ただ、入会した当時は何でもお受けしていただんですけど、JIC生活の中で、結婚して子どもができて、ありがたいことに仕事の方もだいぶ忙しくなつたり、状況が変わつてきて、十分にそういう話を受けることができなくなつたことが後半はありました。自分としては、その時その時でいい選択をしていたつもりではあるんですけども、ふとしたとき、もう少し無理をすればなんとかできたんじゃないかな、と、多少追い目があつたりもします。

皆様はまだお若い方もいらつしやいますし、一人一人がこれからのJICを支えていくくれるメンバーだと思つていますので、これからのいろいろな声がかかるとも多いいと思います。そのときに、家庭のこと、仕事のこと、いろいろなことを考えた上で、後悔のない選択をしつかりしていただければと思います。

ただ、役をやつた上で何かもし、仕事とか家庭に何かあった場合に、責任つて自分しか取れないんですけど、なぜなら、最後に役をやるかやらないかつて返事をしたのは自分なんです。どれだけ、誘われたからやりますつて言つたといつても、誰も責任は取れません。なので、それをじっくり考慮した上で、皆さんこれからのJIC活動をしっかりと励んでいってもらえればと思います。ご静聴ありがとうございます。